



2016年5月発行

復活、たしかな望み

アダムによってすべての人が死ぬことになったように、キリストによってすべての人が生かされることになるのです。

(コリントの信徒への手紙一 15章22節)

コリント教会の中のある人々は、イエス・キリスト以外に死の中から復活する人はなく、すべての死者は滅びてしまうと考えていました。しかしパウロは、死者の復活を否定することはキリストの復活そのものを否定することになるのだと言います。それは、死者が復活しないならば、キリストも復活する必要がなかったからです。まさに一人でも多くの人々を復活させて、永遠の命を与えるためにキリストは復活されたのです。

パウロはそのことを「初穂」のたとえをもって言い表しました。初めて出来た穂は、引き続き生じる豊かな実りを約束するしるしですから、これを見ると農民はとても喜びます。父なる神も復活されたみ子を見て、喜ばれたことでしょう。キリストが初穂として復活されたことにより、あとに続く私たちも、死んでも復活出来ることとなりました。

パウロはさらにアダムとキリストの対比によって語ります。最初の人間アダムは罪を犯したため、エバと一緒に死という定めを受けるようになったことが書いてあります。神はアダムに言われました。「塵にすぎないお前は塵に返る」(創世記3:19)と。罪の報いは死なのです。

人間の死と他のすべての生物の死を同じように考えることは出来ません。というのは動物も植物も、それ以外の生きものもみな罪というものを知らずに生きて、死んで行くからです。人間はそうはまいません。誰もが神様と関わりながら生きています。神に背くことが罪です。人は誰も罪との闘いの中で人生を過ごします。そして、その総決算としての死と世の終りにおける復活、神の前での裁きが待っているのです。

アダムが犯した罪とは、神様に背いて、自

分が主人となって生きようとしたことにありました。これが人間の罪の根本であって、私たちもみんなアダムと同じ罪を日々犯しているのです。その結果、神様との関係は損なわれ、これが行くところまで行って神様との敵対関係になれば、死は神様の怒りと裁きのしるしでしかありません。アダムは全人類を覆う罪の初穂となったのです。

しかし、これがすべてではありません。神様が遣わして下さったみ子イエス・キリストが全人類の罪を背負って十字架にかかり、死んで下さったことによって、このことを信じる人の罪が赦され、罪によってもたらされる死とそのあとに体験することに対して、苦しみ、恐れが取り除かれたのです。もちろん私たちにも、迫りくる死への恐れがあります。しかしイエス様を信じて、神様との敵対関係が根本的に解消されたのなら、もはや自分の死を神様の怒りや裁きとして恐れる必要はないのです。キリストはあらゆる罪を滅ぼされます。そうであるならば、最後の敵として滅ぼされるのが死です。ですからキリストが再び来られる時、死者は復活するのです。

人は目の前の命より大切なことを見出した時、人生をそれまで以上に充実させ、そうしてかえって命をながらえるものです。ある人は20数年前、「私にはもうすぐ死という喜ばしいことが起こる」と言っていました。死は神様と会うことですから喜ばしいことなのです。ただその方に、その「喜ばしいこと」はいつこうに訪れず、いま92歳、ますます元気で活躍されています。…最後の敵、死が滅ぼされることを見据え、復活の信仰に生きている一つの例として紹介させて頂きました。

十字架の上で死んだキリストは復活され、ご自分を信じる者を救い上げて下さることを約束して下さいました。その先に、死が滅ぼされることと神様による世界の完成があります。人間の思いをはるかに超えた、恵みと導きの中に私たちの人生もあるのです。

(2016年4月17日の礼拝説教より)

牧師 井上 豊